

参拝のしおり



諏訪神社

四日市市諏訪栄町22の38
電話 四日市〈059〉352-2422



※詳しくは公式ホームページをご覧ください



四日市まつり

江戸時代、当市市民は諏訪大神の御神徳に報い奉らんと絢爛豪華を誇る山車（練物）二十数台を造り大神の大御心を慰め奉ったのであります。それ以後此山車の立派さから当諏訪神社の例祭が東海道随一の祭と仰がれ四日市全市の祭として益々盛んとなりついには四日市祭りとして全国にその名を知らるゝに至ったのであります。

祭日は毎年九月廿五日から廿七日の三日間に豪華絵巻ながらに最高潮に達するのでした。然し大東亜戦争の戦火により、当社殿は云うに及ばず豪華を誇った山車の大半が烏有に帰し到底復興覚束なく思われましたが早くも昭和廿六年氏子崇敬者の御尽力により全国戦災神社に魁けて現在の社殿を復興する事が出来たのであります。

現在は、十月第一土曜、日曜に例祭が執り行われております。

諏訪神社略由緒

所在地 四日市市諏訪栄町二十二番三十八号
御祭神 建御名方命
八重事代主命(えびす神)

当諏訪神社は鎌倉時代の初め建仁二年(一二〇二年)信州諏訪神社の御分霊を此地に奉遷致しましたもので四日市開拓以来の氏神であり、又四日市開発の産土神であります以来四日市の氏神として深く信仰され四日市が商工都市として発展するに伴い御祭神である「えびす神」即ち八重事代主命に対する信仰厚く各商家は夷講と唱えて競って諏訪大社を商売繁昌の神として祀ったのであります以後当神社に対する崇敬いよ／＼厚く祭礼も四日市まつりとして年を追って賑々しくなつて参つたのであります。
最近は大垣、岐阜、名古屋の商家の方々が「えびす様」の御砂を戴きに來られ、商売繁昌の「えびす様」商家の守神様として広く厚く信仰される様になつて参りました。

境内社 山津見神社由緒

山津見神社は四日市市内各町の山の神を当神社境内に合祀致しましたもので御祭神は、天照大神、猿田彦神、外九神で特に猿田彦神の信仰厚く、古くから建築に際しましてはこの猿田彦神の御砂を敷地にまいて家の無事安全をはかるならわしで、この御砂を御受けする信者が絶えず、非常に多くの崇敬者がありました。戦災により焼失致しましたが、昭和三十八年、四日市全市をあげての協力によりまして戦前よりはるかに立派な社殿を再建致し、今日では猿田彦神の御砂を御受けして建築の無事は云うに及ばず商売繁昌、家内安全を御祈りする信者が後を絶ちません。

境内社 稻荷大明神由緒

当神社境内にある正成稻荷大明神は古くから「まさなりさま」と市民に親しまれ何事も正に成る、成就する即ち御祈りすれば願ひ事はすべて成功する、万願成就の御稻荷様として古くは遠く他府県からの参拝が絶えなかつたのであります。願ひ事は何事でも正に成る成功疑いなしとの「まさなりさま」信仰は民間信仰として広く知られていたのであります。
戦災に際しましては二尺と離れぬ周囲の屏並に建物が見事に全焼しましたにもかゝらず不思議にも御本殿だけは何等の災害もなかつたのであります。このため社殿再建に際しましては市内氏子の方々は云うに及ばず、遠く福島、富山、或は岡山、愛知方面等全国各地からの御寄附により社殿の再建がなされ以後今日まで次第に「まさなりさま」信仰が高まつて参り、災難除け、又万願成就の福德稻荷大明神「まさなりさま」として厚く信仰を受ける様になりました。

境内社 諏訪天神由緒

当神社境内には古くから学問の神様である天神様の立派な御社がございましたが戦災で焼失致しました。所が其の後早く復興する様にとの聲が高まり、先年、本殿の北に小さな神殿を据えて、天神様をお祀りしました。それ以来受験生をはじめ多くの学生から諏訪天神として親しまれる様になり受験、進学のための御参りや、祈願の絵馬を奉納する人々が年々ふえて参りました。